

神奈川県環境大使コラム（エコ 10 だより 2023 年 9 月 15 日配信）

～白井貴子 環境コラム（第 17 回）～

私のママはエコの女王！「ありがとう Mama」

前回のコラム「地球の命はあと 12 年?!」はちょっと皆さんを驚かせてしまったかも知れません。

でも、そんな信じがたい報告があるからこそ、私はその痛手を力に、「だったら環境のことを伝える 12 年連続の SDGs なライブを、できればこの神奈川県で開催したい!」と思い立ちました。だって心素直に「そうなんだ〜」って聞き流せる数字じゃない! 皆さんも是非、ライブに参加しに来て欲しいです。

そんな時、車で来られる方はどうぞ「車間距離」を取るよう心がけてくださいね。急ブレーキをかける回数を極力減らすことが今、地球にとっては急務! ブレーキをかけるたびに「マイクロプラスチック」が空中に飛散することを前回お伝えしましたが覚えてくれていますか?

今回はリサイクル和紙のお話。

実は昨年、89 歳になる私の両親が二人仲良く他界。今年の母の日の 5 月 14 日に「ありがとう Mama」という本を出版しました。

母は長年、難病のリウマチに苦しみ、私もずっと介護をしていましたが、若い頃は私の「ロックの女王」時代のミニスカートの衣装を作ってくれるほど手が器用な人で、何より母こそが「エコの女王」だったんです。

100 円ショップで購入した洗濯ネットの穴をご丁寧に手縫いで繕ってあるのを先日物置で発見し、「ママ! ここまでやるの?!」・・・と涙が出ちゃいました。台所の菜箸も汚くなったらポイ! じゃないんです。鉛筆みたいに削って削って使い切る。凄いといませんか? だから最後は普通の箸の長さになった!

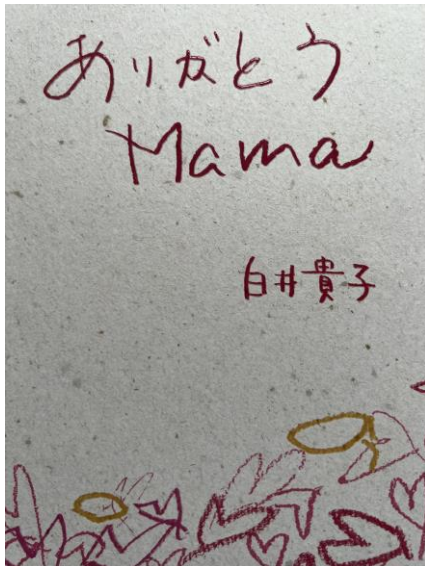
ママはド根性エコ婦人でした。(笑)

そんなママのことを綴った私の初の著書だったので、これはママに叱られないような本にしなくては! と思い、長年仲良くしていただいていた福井県の越前和紙の里の皆さんにご協力いただき、和紙を漉く際に出る端切をリサイクルした紅色の和紙を内表紙にし、表は回収された段ボールを和紙に加え製作した和紙で本を作りました。越前和紙の石川製紙さん曰く、「ダンボールのリサイクル率はまだまだ低い」とのこと。お陰様で 1 冊として同じもののないリサイクル和紙の美しい本になりました。

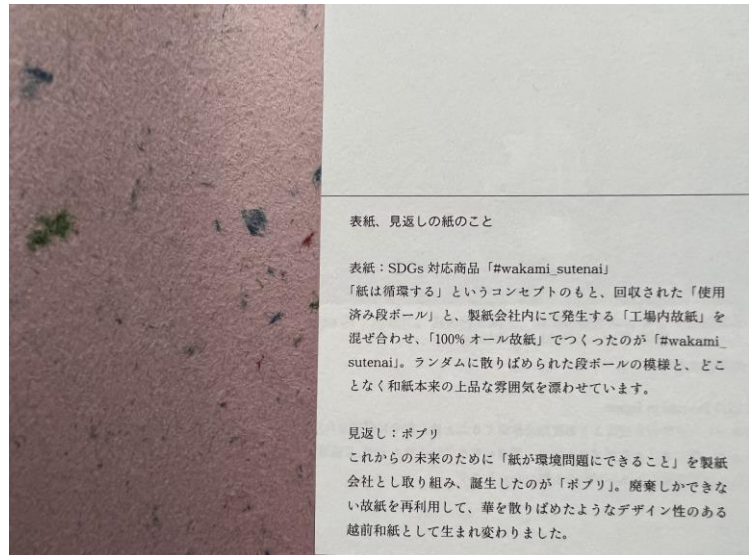
「ありがとう Mama」 是非、手にしてもらえると嬉しいです。

皆さんも何かを作る時、なんでも先に買ってしまわないで、まずは「家にあるもので再利用できないか？」を考え、私のママのように「エコの女王」、「エコの大王」になってくださいね。

あと12年の数字を塗り替えられるように頑張ってください！



段ボールリサイクル和紙の表紙
「ありがとう Mama」の本



裏表紙の美しいリサイクル和紙